CLINIC

働くあなたのクリニック

手術で治る認知症があります

Q 認知症とはなんですか。

認知症とは、いろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり、働きが悪くなることによってさまざまな障害が起こり、生活するうえで支障が出ている状態のことをいいます。もの忘れは、年齢とともにもの覚えがわるくなったり、名前が思い出せなくなったりすることで、脳の老化が原因であり認知症ではありません。

Q 認知症にはどのようなタイプのものがありますか。

およそ半数はアルツハイマー型認知症です。次に多いのがレビー小体型認知症、そして血管性認知症と続きます。これらは「三大認知症」といわれ、全体の約8割を占めますが、残念ながら今のところ完全に治す方法はありません。しかし残りの2割の認知症の中には、手術をすれば治るタイプの認知症があります。

Q 手術をすれば治るタイプの認知症にはどのようなものがありますか。

正常圧水頭症、慢性硬膜下血腫、脳腫瘍などがあります。脳腫瘍は病態が複雑ですので、手術をしても必ずしも完全に治るとはいえませんが改善する可能性はあります。正常圧水頭症やイミングを逸することなく治療が行われればほぼ完治する予後のよい疾患です。

当病院でも神経内科、脳神経外科、もの忘れ外来などで画像診断を行い、手術適応があればすみやかに手術を施行しております。認知症でお悩みのかたは一度お問い合わせください。

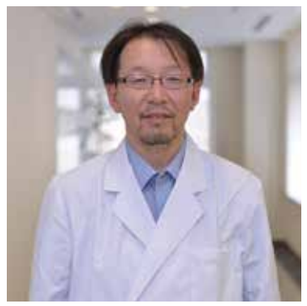
慢性硬膜下血腫は適切な治療により症状が改善することが多い疾患です。

Q 正常圧水頭症とはなんですか。

頭の中にある脳脊髄液の循環が悪くなり、脳の中にある脳室という部分にたくさんたまってしまい、脳を圧迫して歩行障害、認知症、尿失禁などの症状がでます。診断は、頭部CTやMRIを行います。ただ、脳室が大きくなる現象は、アルツハイマー型認知症でも見られることがあり、画像検査のみでは正確な診断は困難な場合があります。その場合は「髄液タップテスト」(背骨の間から脳脊髄液を少し抜いてみて、症状が改善するかどうかを試す検査)を行い、症状が改善した人は正常圧水頭症と診断されます。手術は脳室腹腔シャント術、もしくは腰椎腹腔シャント術を行います。脳室腹腔シャント術の場合は患者さんの脳室にシリコン製のチューブを、腰椎腹腔シャントの場合は腰の部分にある腰椎くも膜下腔にチューブを挿入し、脳内にたまった余分な脳脊髄液を皮下に埋め込んだチューブを通しておなかの中に流す手術です。手術を受けた方の70~80%の人で認知症状が改善するといわれています。ただし手術は脳のダメージが少ないうちにおこなわないと、せっかく手術をしても認知症状が改善しない場合があります。つまり早期診断、早期治療がとても大切だということです。

Q 慢性硬膜下血腫とはなんですか。

軽い頭のけがをしたあと、約1カ月以上経過してから、頭蓋骨と脳の間に血液がたまり、脳を圧迫して頭痛や麻痺、しびれ、言語障害、認知症状などいろいろな症状をだします。頭部CTやMRIで診断がつきます。手術は頭の骨にドリルで穴を1個開けてたまっている血液をとりのぞきます。約30分程度で終わる比較的安全な手術です。この病気も正しく診断がなされ、タ



今月の先生

岐阜市民病院　脳神経外科
小谷嘉則 先生
脳神経外科副部長